



# 樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校  
〒080-2473  
北海道帯広市西23条南2丁目12番地  
TEL : 0155 (37) 5501  
発行日 令和5年6月28日

## 知識は自信をつくる(丸田佳奈さんの講演) ~ 北海道高P連北見大会報告

第73回北海道高等学校PTA連合会大会北見大会が6月8・9日の2日間にわたって開催されました。本校からは大坂PTA副会長はじめPTA役員5名と事務局から3名の8名で参加しました。

1日目の総会では本校前PTA会長・角田成幸様が功績者として表彰されました。また、「ゴゴスマ」や「そこまで言って委員会」での出演でマルチな活躍をされている産婦人科専門医でタレントの丸田佳奈さんの講演「北海道の若者が全国で活躍する未来への期待～地方出身を長所に～」が行われました。

丸田さんは網走市出身。中学時に摂食障害になった経験から産婦人科医を目指したそうで、ご自身の経験を踏まえて様々な視点から、次のようなお話をしてくださいました。

子どもをめぐる地方と中央の違いは何でしょうか？今はネットが発達したため、情報や教育にほとんど差はなくなりました。あるのは友達格差です。意識が高い親が多い環境で育った子どもたちはやはり意識が高くなります。この違いが本人の意識や行動に違いを生み出すものと思います。

知識を獲得することはとても重要で、知識はその人間の核となり、自信をつくります。様々なことを知っていくと世の中を動かすのは結局は政治・行政だなあと私は思っています。政治に関心がない人が多いと思いますが、知っていて無意識なのと、知らないのでは雲泥の差です。

だからこそ教育は大切なのですが、学校を取り巻く状況はどんどん難しくなっていくと思います。というのも子どもたちはどんどん権利を主張していきます。それに対して大人は何も言えなくなってきました。教えられることすらパワハラだと言いかねない状況です。教えられることに感謝するようにしていくのが家庭の役割だと思うのです。



### 分科会:子どもの行動や気持ちを理解するためのコミュニケーションについて

2日目の分科会でのスクールカウンセラー・武智智子さんの講話の内容を紹介します。

メラビアン の法則 というのがあります。『行為や感情の本音は、言葉から7%、声の調子から38%、顔の表情から55%伝わるに過ぎない』というもので、言葉は便利な一つの道具に過ぎないことを知っておく必要があります。子どもたちは大人には言えない本音を抱えており、その気持ちを次のような形で表現してきます。

- ①「言いにくいことなんですが」と切り出す  
子どもが本音を言うのが怖いという気持ちの表れです。
- ②「言えない”気持ちを表情や仕草で汲み取ってもらおうとする  
相手にはぼんやりとした違和感として伝わります。
- ③いっさい素振りを見せず、見えない所で吐き出す  
SNSで発信してみたり、自傷行為に及ぶこともあります。こうした行動に対して大人は次のように心掛けることが大切です。
- ◆子どもに任せる。どんな話も受け止める。  
大人が聞き出そうとすると、子どもの側に心配をかけちゃいけないという気持ちを強めてしまうことになります。
- ◆共感(=ともに感じ合うこと)する  
大人が一方向的に共感するのではなく、すりあわせるようにすることで、わかってもらえそうという希望が湧きます。
- ◆「言えない」と言ってくれたことに感謝と尊敬を示す

## いざ全国の舞台へ!

### 陸上部下野さん400mで全国へ

全道陸上で3年1組の下野那智さんが男子400mで4位に入賞し、7月28日から福岡県で行われるインターハイ出場を決めました。下野さんにはインタビューさせていただきました。『きらり』欄をご覧ください。

### 放送局田中さんNHK杯入賞

NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会が行われ、朗読部門で3年6組田中遼洸さんが入賞し、7月22日から東京で行われる全国大会出場を決めました。田中さんは「最後の大会なので悔いの残らないように頑張るのはもちろんですが、後輩たちに還元できるようにたくさん学んできたいと思います」と決意を述べてくれました。



### 松葉保育所の園児さんたちが三条高校に来てくれました!

27日松葉保育所の園児さん12人が本校を訪れ、3年選択教科「ライフデザイン」選択の生徒たちと交流をしました。本校生徒は子どもたちの目線に立って話しかけたり、手をとって誘導したりと積極的な活動をしていました。園児たちは校長室にも来て笑顔をふりまいてくれました。校長室では校長席に座って記念撮影が大人気。大きくなったら三条高校に入学して、いつか三条の校長先生になってください!



## 第38回 3年6組担任 越前千澄 教諭

### 自分のことは自分が一番知らないのかも



#### ◆三条高校に3度育てられました

私は三条高校に3度育てられました。一度目は高校生の時。二度目は教育実習生の時。三度目は教員としてです。特に教育実習生として母校で面倒をみていただいたことが、私が教員を目指す後押ししてくれたのです。というのも、私は元来引っ込み思案で恥ずかしがり屋で、教員には向かないと思っていたのです。ですから教育大に進学しても、教員免許を取らなくても卒業できる、いわゆるゼロ免課程に進みました。この性格を変えたいと思って興味のあった心理学を学ぼうと「人間科学課程」を選んだのですが、それでも英語が好きだったので英語の教員免許はとることにしました。これが実は大変でした。自分の属する課程の科目はほとんど教員免許取得には関係のない科目だったので、専攻分野以外に英語に関する科目も余計にとらなくてははいけません。そして教員免許を取得するには教育実習が必要ですが、小学校の免許もとるようにしていたので、実習は小学校と高校の2回やらなくてははいけません。そこで無理を承知で3年の秋に母校である三条高校での実習をお願いしたのです。「本気で教員を目指すのなら」と私一人だけの実習を引き受けていただきました。2日目にすぐ授業を持たせていただき、4週間で50時間も授業をさせてもらいました。生徒たちは高3の受験を控えた時期に私の拙い授業を真剣に聞いてくれたのです。この実習を通して教員という仕事にやりがいを感じ教員採用試験を受けることを決断しました。今、振り返ってみると自分のことを自分が一番知らなかったのかもしれない。自分の考えに固執せず、周囲の方々のアドバイスや指導に耳を傾けることも時には必要だと今は思っています。

#### ◆カナダ・カルガリーの短期留学研修

教育実習に入る前の夏に、教育大学の海外短期研修にいかせてもらいました。場所はカナダのカルガリー大学。英語を学ぶだけではなく、

小学校2校で1週間ずつ授業をするというプログラムでした。

ホームステイ先はとんでもない豪邸。車は家族の人数よりも多く、部屋数は結局、把握できなかったほど。家の中にビリヤード台があったのにもびっくりしました。

私の部屋が用意されているのはもちろんですが、トイレもお風呂・洗面所も私の専用としてあてがわれていました。自家用ヘリがあるくらいでしたから、スケールが違いすぎます。ホームステイ先からバスを2本乗り継いで大学に通う私に、「どうして国際免許を持ってこないの？車ならあるのに」とホストマザーが嘆いていました（笑）。

ホストファミリーは大変顔が広く、留学期間中、様々な方と引き合わせてくれました。最初は自分に話しかけてくれる人の英語しかわからなかったのが、だんだん周囲の人の会話も耳に入るようになり、理解できるようになりました。小学生相手の授業もやらなくてはいけないので、必死に勉強しましたが、バスで通っている間の会話やいろんなトラブルを切り抜けていくうちに、どんどん英語が上達したものと思います。ホストファミリーはもちろん、大学の先生方、小学校で教えた生徒の保護者の方1名とは今でもやりとりが続いています。手紙が来たら早く返さなくては失礼にあたるからと、真剣に勉強して返します。時にはここ違ふよと教えてくれることもあります。こうしたやりとりが私の英語力を向上させてくれたものと思います。帰国後のTOEICでいい成績を取ることができて教員採用試験の1次試験の英語が免除になったのですから、留学が私の人生を変えてくれたと言ってもいいのかもしれない。



三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

インタビュー

## きらり

### 陸上競技400mでインターハイ出場決定

#### 3年1組 下野那智さん



6月11日～14日に旭川市花咲スポーツ公園陸上競技場で行われた第77回北海道高校陸上競技選手権大会、男子400mで4位入賞を果たし、見事インターハイの切符を手にした陸上部の下野那智さんにインタビューしました。

まず大会を振り返ってもらおうと「今の自分が持っている力は出せたのかな、と思います。事前の支部ランキングでは最初5位でレースを重ねるごとに変動があり、レベル

も高くなって不安もあったのですが、準決勝で自己ベストをだしてその勢いそのまま決勝を走れました」と話してくれました。そして全国出場の実感はそんなには言いつつ、「中学1年生から全国行きたいと思っていて、高校に入って先輩たちの姿を見て、自分も同じ舞台に立ちたいと思っていたので、それが叶ったとなるとやっぱりテンションは上がります」と笑顔があふれました。

インターハイの舞台は福岡。相当な暑さが予想されます。その対策を尋ねると「熱中症怖いですね」と笑いながら、「特別な対策はしていません。とにかくインターハイが記念レースにならないようにしたいです。三条陸上部には部のベスト記録があって、それを超えることを目標とし

て練習を継続していきます」ときっぱり。

陸上は小学6年生から始めたそうです。それまではサッカーをしていて自分なりに限界を感じていた時に、友達と一緒に陸上しないかと誘われたのが陸上を始めるきっかけだとか。初めは800mと100mをやっていたのですが、中1の後半に先生から400mを勧められて今に至るのだそう。「高校に入学してからは、みんなで目標を明確にして、お互い鼓舞しあいながら自分たちを追い込むよう練習に取り組んできました。陸上は個人競技とよく言われますが、一緒に練習をしている仲間たちとの関係性も重要です。仲間たちから期待されたり、応援されると頑張れることがあります」と今回も仲間たちの応援が力をくれたと語ります。「マイルリレー（1600mリレー）でのインターハイをみんなで目指してきていたのに準決勝で終わってしまい、みんなの悔しさが伝わってきたので、その思いと一緒にインターハイを走りたいと思います」とインターハイへの意気込みを話してくれました。

最後に後輩たちへのメッセージを聞きました。「今回の悔しさをどうとらえるのかによって今後の練習に対する姿勢や思いが変わってくると思います。自分は弱いととらえるのではなく、この経験を活かすんだという強い思いをもって頑張ってください。去年の自分がそうだったんです」と答えてくれました。

福岡でのインターハイ、暑さに負けず頑張ってください！